

東京都ペストコントロール協会が関わる ヒアリ等の対策について

(公社)東京都ペストコントロール協会 会長 清水 一郎

近年問題になっている特定外来生物であるヒアリ等が都内港湾部で発見され、また、アカカミアリ・アルゼンチンアリ・ハヤトゲフシアリも生息が認められました。侵入そして生息は主に海外からの輸入品を積むコンテナから持ち込まれるため、港湾地区での発見がメインになります。現在のところ、そこからの移動によって都内全域に広がってはおりません。しかし、環境適応し、繁殖をし始めれば手に負えない状況になることも考えられます。それぞれが繁殖力の強さや、他の生物の捕食能力の高さ、毒を持つなど、人と生態系に大きく影響を及ぼす可能性の高い種であります。

では、東京では特定外来生物であるヒアリ等の対策を行政とPCOがどのように取り組んでいるかと言いますと、まず国では環境省が全国の港湾部でのモニタリングとアリ用ベイト剤設置を行い、国交省が羽田空港のモニタリングを行っています。東京都は環境局でモニタリングを行い、港湾局でモニタリングと薬剤による防除を行い、区では品川区が防除を行っています。それぞれが担当エリアを決めて、調査及び防除対応を行っています。東京都ペストコントロール協会ではいくつかの現場に携わり、知見を深めて来ましたが、しかし、この知見はすべて行政の委託事業でのものであり、場所や日付等を具体的には紹介できないことをご承知おきください。

その中で東京都港湾局の対策に5年間にわたって東京都ペストコントロール協会が関わっておりますので、その対策の概要をお伝えします。港湾局が対応して調査・防除事業を実施しているエリアはバンプール(コンテナの仮置き場)とシャーシプール(トラックのコンテナを乗せる台の部分置く場所)です。

まず、平成29年には大井ふ頭においてヒアリが確認されたことを受け、冬期にふ頭周辺地区にヒアリ等が侵入していないことを確認するため、生息モニタリング調査を行いました。モニタリング方法は踏査によりアリを搜索し、外見等により特定外来生物の疑いがあると判断した個体の一次鑑別を行い、一次鑑別の結果、特定外来生物の疑いがあると判断した個体については専門機関等に送付し同定依頼するという内容でありました。結果として冬期でもあり、アリの活動はほとんどなく、生息は認められませんでした。

翌30年度は前年同様にヒアリ等がふ頭周辺地区に侵入していないことを確認するための生息モニタリング調査を実施しました。この年は以下の方法で年2回(7・10月)調査を実施しました。

- ① 粘着式捕獲トラップを設置し、後日回収の上、捕獲したアリの一次鑑別を行う。
- ② ベイト式捕獲トラップを設置し、一定時間後に回収の上、捕獲したアリの一次鑑別を行う。

東京都ペストコントロール協会が関わるヒアリ等の対策について

③ 踏査によりアリを搜索し、外見等により特定外来生物の疑いがあると判断した個体について一次鑑別を行う。

なお、粘着式捕獲トラップは約50m間隔で5日間設置し、ベイト式捕獲トラップは朝設置し、夕方回収しました。この年より固有種も含めた捕獲アリすべての同定と頭数カウントも協会で行い、結果、7・10月ともにアルゼンチンアリの捕獲があり、ハヤトゲフシアリも捕獲されました。

この2年間の結果を踏まえ、31年度はヒアリ等の生息状況を調査し、水際での定着・侵入を防ぐため、トラップ調査と薬剤による防除を行っています。ふ頭全域のトラップ調査は年2回(5・10月)行い、前年アルゼンチンアリ捕獲エリアでは4月から11月まで毎月一回トラップ調査を行い、なおかつベイト剤(フィプロニル)設置とフィプロニルの液剤散布を行っています。ハヤトゲフシアリ捕獲エリアは4月から6月まで液剤散布を行いました。

その後、アカカミアリをシャーシプールで発見し、IGR(ピリプロキシフェン)剤やフィプロニル固形剤などを使用して防除を行い、駆除完了しました。また、去年はハヤトゲフシアリを発見しましたが、この種はスナック菓子(調査用ベイト)には集まらず、目視調査がメインとなり、調査方法の確立も、新しい生物調査では重要であることを実感しました。現在までは発見してからの防除が成功しており、その後のそのエリアでの生息は認められておりません。

東京都環境局のヒアリ等調査エリアは都立公園と都有施設で、年間2回の調査は港湾局と同様です。調査以外に環境局では東京都と港湾エリアの区の職員向けの講習会開催が仕様

に入っており、生態・調査防除方法・現場での実習までを行っています。現在までは特定外来生物のアリは発見されておりません。

一去年は日本ペストコントロール協会が環境省から受託したヒアリ等発見時の防除を行いました。この作業エリアはヤードと呼ばれる船からコンテナを降ろす場所であり、当然、海外からの荷物と一緒にアリ等の生物も持って来て、その場所に下ろすのでリスクの高いエリアです。このエリアは、もちろん自由に出入りができず、トラックの往来も激しく、入場も申請した上でアテンドの必要があったり、時間は早朝しか入れないという制限がまざります。また、何回もの発見に伴い、防除は毎週入り、いなくなるまで続けなければなりません。かなり過酷な現場となりました。防除ではヒアリ・アカカミアリを含め、特定外来生物以外のアリで侵略的外来種のアリや日本、本州では生息が認められない種が何種類も見つかりました。逆に餌が少ないためか、外来種に捕食されるのか、在来種のアリの生息はかなり少ない状況でした。

今後の作業については、生息状況に合わせて毎年仕様を変えていかなければならず、発注先とよく協議をして、より効果的で、結果が出せる方法を模索する必要があります。

全国の港、空港で物・人が毎日出入りしている中、当然昆虫もウイルスも出入りをしてしまいます。特定外来生物に限らず、今後は植物防疫に関わる昆虫・ウイルスへの対応もPCOが担う日が近いものと思われます。東京都ペストコントロール協会では以上のような対応をこれまで行ってまいりました。